



Title	常設夜間休日HIV検査場 “chot CASTなんば” の現状と課題について
Author(s)	毛受, 矩子; 熊本, 光代
Citation	大阪公衆衛生. 2018, 89, p. 22-24
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78672
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

常設夜間休日HIV検査場 “chot CASTなんば” の 現状と課題について

毛受 矩子・熊本 光代

特定非営利活動法人スマートらいふネット

1. はじめに

厚生労働省2016年エイズ発生動向によれば新規HIV感染者数1011件、AIDS患者数437件が報告されている。HIV感染者は、2004年以降急激に増加したが、2008年をピークに横ばい状態となっている。一方、最近では若年層を中心とした梅毒報告数が増加している。梅毒の増加はHIV感染力への誘因ともなり、また若い女性への感染は母子感染等次世代への健康課題に対する影響は大きい。

大阪での取り組みは2004年頃よりHIV感染者が増加傾向にある中で、「愛称：chot CASTなんば（Communication Hub of Testing Counseling And Support大阪検査相談・啓発・支援センター）」は2008年に「関西におけるHIV／AIDS問題の総合的な解決」を目的に開設された。そして「chot CASTなんば」における常設夜間休日HIV検査相談事業が、2008年8月に「特定非営利活動法人（以下NPO法人）スマートらいふネット」に受託された。

本稿では「NPO法人スマートらいふネット」が受託事業として実施している常設夜間休日HIV検査相談事業に関する経過と動向、今後の課題を報告する。今後のHIV検査相談事業の取り組みの一助となれば幸いである。

2. 「NPO法人スマートらいふネット」と「chot CASTなんば」でのHIV検査相談事業の経緯

「NPO法人スマートらいふネット」は元保健行政に働く団塊世代の保健師職が2007年に設立したNPO法人である。退職後も長年培った保健行政の経験とネットワークで地域社会に貢献したいと願

うプロノボ集団である。

2008年8月より、本NPO法人は行政よりHIV検査相談事業を受託され開始してきている。現在の受託検査事業は、①検査日程は通常検査：火・木曜日（開設時間18：00～20：00）、即日検査：土曜日（開設時間14：00～16：00）であり、②検査項目はHIV（抗原抗体検査）、B型肝炎（HBs抗原検査）、梅毒（RPR・TPHA定性検査）である。③職種は医師、保健師、看護師、養護教諭、臨床検査技師、臨床心理士、事務職等多くの職種の参加を得て検査を実施している。

3. 「NPO法人スマートらいふネット」が受託した常設夜間休日HIV検査相談事業の動向

1) 受検者数と平均年齢

2008年8月から2017年3月末までの8年8ヵ月間の受検者40,970名の動向

受検者数は男性28,578名、女性12,344名、その他48名であった。

受検者の平均年齢は「男性」が 34.0 ± 10.0 歳、最少7歳、最大82歳、「女性」は 28.6 ± 7.5 歳、最少7歳、最大74歳、「他」は 27.5 ± 6.7 歳、最少18歳、最大48歳であった。

2) 受検者の推移

受検者の推移は2014年度をピークとして近年微減してきている。受検者減少の背景として、郵送キッド利用者の増加が推測される。即日検査受検者は多い傾向にある。最近では梅毒増加の報道を受け即日検査受検者は定員50名を大きく上回っている（表-1）。

（表-1）平均受検者数

（単位：人／回）

種別	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	全体
通常検査	34.4	25.2	21.7	25.7	23.6	28.9	28.7	26.6	24.3	25.6
即日検査	—	—	—	40.2	39.7	42.3	45.2	47.1	44.4	43.3
全体	34.4	25.2	21.7	29.3	27.7	35.6	36.9	33.6	31.2	30.9

3) 男女別陽性率の推移

男性のHIV陽性率は開設当初は2.1%と高かった。感染不安を持ちながら検査機会を待っていたことが推測される。2015年度から2016年度の陽性率はMSMを中心として0.9～0.6%である。一方梅毒は近年増加傾向にあり、2015年度以降の梅毒陽性率は前年2014年度の1.6倍近くの増加となっ

ている（表－2）。

女性の梅毒感染者率は2016年度は前年2015年度の3倍と増加している（表－3）。

とりわけ梅毒感染者では10～30歳代の若い女性が74.9%を占めていた事は、次世代の母性の可能性を持つ世代として今後の大きな課題である（表－4）。

（表－2）男性の陽性率

（単位：％）

項目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
HIV	2.1	1.0	1.2	0.9	0.5	0.8	0.7	0.9	0.6
HBV	1.0	0.7	0.3	0.7	0.3	0.4	0.5	0.5	0.3
梅毒	4.2	3.6	3.8	3.1	2.9	3.5	4.0	6.5	6.4

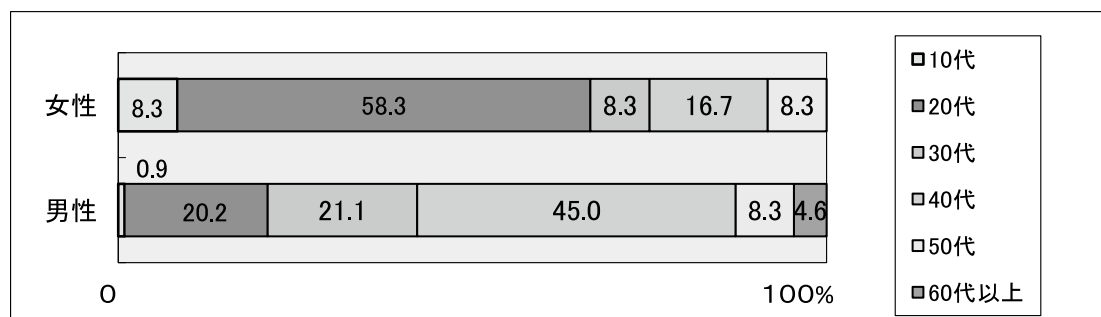
（表－3）女性の陽性率

（単位：％）

項目	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
HIV	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
HBV	0.2	0.5	0.5	0.1	0.2	0.4	0.2	0.4	0.5
梅毒	0.6	0.8	0.2	0.7	0.6	0.6	0.7	0.7	2.1

（表－4）梅毒 男女別・年代別陽性者比率（2016年度）

（単位：％）



4) 女性スタッフによる女性のための検査・相談事業「特別企画；レディースデー（HIV及び梅毒等の即日検査と相談事業）」の開催

女性の梅毒感染の増加を受けて「大阪エイズウィークス2017年イベント」として特別企画を開

催した（図－1）。「感染不安を持ちつつ長年悩んでいた女性」や「婦人科疾患として相談できる場所は嬉しい」の声もあり今後の取り組みに大きな示唆が得られた。

(図-1)「特別企画；レディースデー」案内ビラ

大阪エイズウィークス2017イベント

女性スタッフによる女性のための検査・相談
特別企画：レディースデー 2日間実施
HIV及び梅毒等の即日検査と相談

日時 2017年**11月13日**(月) 受付17:00～18:30
11月15日(水) 受付17:00～18:30

会場 chotCASTなんば 「なんば駅」すぐ(裏面地図参照)
〒556-0011大阪市浪速区難波中1-6-8イチエ総合ビル3F

内容 検査項目(HIV・梅毒・B型肝炎)
検査結果は当日お渡しします。
(但し確認検査が必要な場合は11月22日(水)となります)
女性と性感染症等に関する相談にのります。

定員 50名(先着順、事前予約無し)

費用他 無料・匿名

主催 NPO法人スマートらいふネット
後援 「大阪エイズウィークス2017参加企画」
大阪府・大阪市・公益財団法人エイズ予防財団
問い合わせ先
スマートらいふクリニック
時間 火・木 (18:00～20:00)
土 (14:00～16:00)
検査当日 (17:00～19:00)
電話：06-6632-0632
<http://www.smartlifeclinic.com/>

NPO法人スマートらいふネットは
大阪府・大阪市の委託を受けて
毎週火・木・土にHIV等の検査を
chotCASTなんばで実施しています

女性の梅毒増加中
梅毒とは・・・
梅毒は感染している人との性的な接触(粘膜や皮膚と直接接触する事)などによってうつる感染症です。陰部に潰瘍が出来たり、リンパ節の腫れ、全身発疹等の症状を呈します。進行すると脳や心臓にも症状が出る場合があります。梅毒に患っている人が妊娠すると早産や死産になったり、胎児に重篤な異常をきたすことがあります。

この機会にあな
たも検査を受け
てみませんか

(図-2) 検査場の面接室・待合室



4. 新しく生まれ変わる新名称「chot CAST」 と今後の課題

「chot CAST なんば」(図-2)として広く知られてきたが、3月上旬に若者が多く集う「心斎橋」に新名称「chot CAST」として移転する。(検査曜日、時間、項目は同じ、地図、電話番号等はHP参照)。

今後の課題は、①感染不安を抱えた個別施策

層(若年、MSM、CSW、外国人等)への積極的な取り組み、②女性に特化したレディースデー等の女性に優しい相談と検査日の設定、③性感染症不安をもつ母性世代(妊娠、子育て層)への支援、④学校保健と連携して若者世代への感染予防のための啓発教育、⑤NPO法人として行政や他のNPOと協働して地域ニーズに対応した取り組みを強化していきたい。